

第48号

緑の相談所だより

秋号 1997. 10. 1発行 編集：旭川市緑の相談所

庭の整理・秋の防除・冬囲い

日時 平成9年10月12日(日)
午後1～3時

講師 フラワーマスター
小島 博昭氏

洋らん・冬にむけての管理

日時 平成9年10月26日(日)
午後1～3時

講師 旭川らん友会
会長 笠原 幸三氏

冬の鉢物管理

日時 平成9年11月9日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

アザレア・シクラメンの咲かせ方

日時 平成9年11月23日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄



園芸一口メモ

小さな苗や株を最初から大きな鉢に植えれば、植え替えの手間が省けて合理的と思えますが、鉢土の乾きが遅いため根張りが悪く、根腐れを起こしやすくなります。

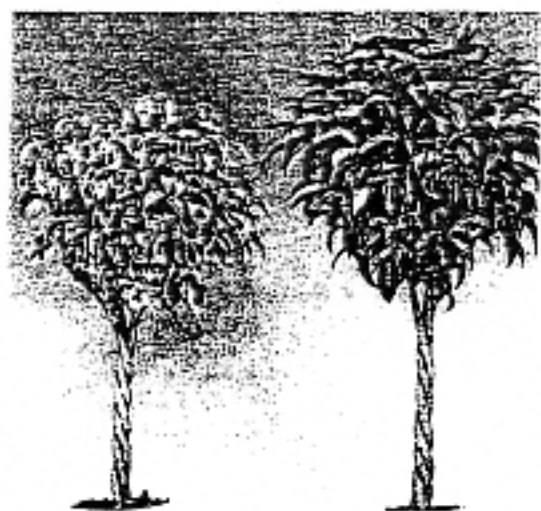
植物の根は鉢壁にぶつかるまで分枝せず、まっすぐ伸びる性質があります。

生育段階に合わせて植え替えることは、植物を健全に育てるために欠かせない作業のひとつです。

■大きすぎる鉢



Q ベンジャミンの葉が落ちてしまうワケは?



A 葉が落ちる原因としては、日照不足、乾燥、温度不足などが考えられます。



ベンジャミンはインド原産のゴムノキの仲間で、日当たりと高温多湿を好みます。夏の戸外であれば問題なく育ちますが、室内に置く場合は日照不足で葉が黄変したり、炭そ病などを引き起こして葉が落ちてしまうことがあります。また、クーラーを使用している室内では、空気が乾燥して湿度不足になり落葉することもあります。温度は最低でも5℃必要です。冬に葉が落ちる場合は、5℃以上、できれば10℃前後を保つようにしてください。

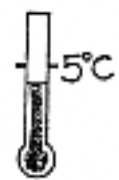
冬は樹木が不活発になる時期ですから、水や肥料をやりすぎると根腐れを起こし、葉が落ちて枯れてしまう場合があります。冬は肥料を与えないようにし、水やりは乾いたらやる程度にします。

室内で育てるとき

注意したいこと

- 1日2～3時間日光に当てる

夏のクーラー × 冬の低温 (5℃以上)



- 1日1回、葉に霧を吹いて乾燥しないようにする



冬の多肥

バラの冬越し

今年中、何回も美しい花を楽しませてくれたバラですが、大輪バラやつるバラなどは-10℃以下の寒風にあうと枯死します、旭川の寒さは厳しく雪の遅い年など特に枯れこむ危険が多いので、来年もまた咲かせるためには冬越しが大切な作業になります。11月上旬から12月上旬までに済ますようにします。

種々ある越冬法の内、最も安全で簡単な土に埋める方法をお薦めします。

越冬作業の手順

- 仮剪定 ~ 今年中に伸びた太くて若い枝（花の咲いた枝）の先端部と細い不要枝を整理する程度の軽い剪定とします。冬の間には枝枯れの心配がありますので幹や枝数は多目に残しておきます。
- 葉落とし ~ 葉に病害虫などがついていて、越冬中に幹に付着し腐敗させることがありますので、葉は全部手でむしり取ります。落とした葉は丁寧に集め土に埋めるか焼却します。
- 防除 ~ ウドンコ病などの病気、ダニなどの害虫を越冬させないために石灰硫黄合剤（30～50倍）を株とその周囲に撒いておきます、但しこの農薬は冬季間のみ有効ですのでご用心。
また、根の地表に近い部分に大きなコブがついていたり、小さなコブが根に連なるように付着している株を見つけたら、その分を削るか切除し、周囲の土と一緒に離れた場所に捨てます
- 結束 ~ 越冬中の枝折れをさけるため、株の1～2ヵ所ボリ紐などで堅く結束します。
- 埋土 ~ 根の切断を最小限にして、その場に倒すか土中に埋める方法です（株の4方向の内2方向のみ断根）
株の片側にスコップを深く差し込み断根し、その反対側に株が浅く埋まる程度の穴を掘り、株を押し倒し土をかけて埋めます（根の部分は土を深く）。この時株を結束した紐を長めに残し地表に出して目印とし、来春この紐を引いて株を引き起こします。

その他の方法

- 堀上法 ~ 株全体を掘り上げ土に埋め、来春植え替える方法ですが、根を多く切断するため来年の生長は少し遅れます。
- 土掛法 ~ 株を地上30cm程度に強剪定し、土を掛けるか藁などで保護する方法ですが、冬枯れの危険は残ります。
- ミニバラ ~ 小さな鉢のミニバラなどは強剪定をし、日当たりの良い室内で育てることができます。

前号に続いて植物への水やりについて話を進めましょう。

植物が必要とする水は99%根から吸収されます。チランデシアの仲間のように根には頼らず、葉の表面から吸収する植物もありますが、これは極めて稀なことです。根から吸収された水は茎や幹にある導管・仮導管を伝って体中に送られます。文字どおり根と茎は植物の根幹をなしているわけで、根に故障があれば水は吸収されず、茎に故障があれば水は上へと移動することができません。結果はおわかりでしょう。

植物の命の水は、まず健全な根の先から吸収され、その水の中に養分がとけ込んでいて、水と共に体の各部に送られていきます。光合成とその副産物がこの水を原料にして産まれます。水やりの基本はこの健康な根を育てる事にあるのです。

根の伸び方にはその植物特有のリズムがあります。熱帯性植物、砂漠性植物、温帯性植物、寒帯性植物などにより差がありますが、私達の身近かな植物である温帯性の植物を例にとると、雪融けから初夏にかけてよく根が伸びます。夏は一服夏休みして初秋の涼しさでもう一度根が伸びますが、この時の勢いはさほどではありません。そして長い冬休み。これが根の伸長の季節的なリズムです。このリズムをよくみると誠に理に叶った仕組みになっていることに気がつきます。雪が融け、地温が高くなるにつれて根が伸びだし、水を地上部へ供給します。勿論この水には養分がとけ込んでいます。植物は芽を吹き勢いよく伸び始めます。6月、根の伸びは最盛期を迎え月末には夏休みの準備に入ります。この頃の地上部分は茎も伸び、枝葉も生き茂り体が出来上がります。体が出来上がると次の仕事、実りの準備です。

1年草は花や実の、多年草や球根類、樹木類は来年の花の準備をこの時期から始めます。皆さんもご存知のように、体に十分な養分が蓄積されないと植物は花芽をつけません。そのためには体の中が水膨れではいけないのです。根の夏休みはこの水膨れにならないための自衛手段なのです。高い温度と少なめの水でしっかりと実や花芽をつけた植物は、秋の根の伸長で必要な水分を軽く補給し、花芽の仕上げのための冬を迎えるのです。根はこの時期体型や体温維持のための極僅かな働きをするだけで冬休みです。見事な自律調整ですね。勿論、植物の原産地によってこのリズムには差があります。そこで、私達は手がける植物のリズムをよく勉強した上で、健全な根の生育のための水やりをすることになります。

勿論、障害となる事があっては根は健全な生育をすることはできません。根が伸びるのに障害となる事柄には、根の回りの酸素不足（過湿・・・特に溜まり水）・水不足・有害物質の蓄積（肥料の食べ残しなど）・病害や虫の害・土の化学的、物理的性質の不適合などがあります。これらの内、人為的に私達が起こしている障害は、水のやり過ぎ（過湿）と、やらん過ぎ（過乾）でしょう。いずれも、植物の生長リズムをよく理解しないで起こす“思い込み”か“溺愛”が原因です。